



バブルの崩壊とその後の経済政策への私信

令和7年8月8日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

バブルという経済環境に対して今日の経済という現実とは新たな技術とシステムにおける企業環境とグローバルイズムにおける経済の統一を有する。

これら次世代という現実転換が今日からバブルの経済を判断するとき、明確な理解として有することができるものである。

バブル後の世界経済のリーダーたちは、明らかに新たな挑戦者、ベンチャーたちであり、今日彼らが世界経済をけん引しているのである。

これらは既存現実固定することは未来を与えず、新たな視点と理解が未来を創造するという、アメリカのフロンティアスピリットを想像させるものである。

これらはデジタル社会への転換という現実に対して、日本はその理解を有することが完全に遅れたものである。それら先見の明を有するアメリカがその隆盛を自己としたことに対して、日本がその後塵を拝したのである。

これらは経済の創造性という視点が存在することを理解できる。既存基幹産業が新たな技術基準へ転換し、次世代という自社環境と製品において今日の市場への参加できることは、日本企業においてももっともな高揚を今日経済は与えるものである。

視点と判断は創造性という経済の創造が今日の経済を与えたことを理解できるものである。

またネクストソサエティへの転換は今後の変化であることは必ず正しい。それらにおいて、新たな社会システムへの転換と市場の需要への企業の確立は、未来における新たな経済の可能性である。

これらは国家における社会政策と経済政策の適切化は、時代を理解し未来を実現することを要求されるものであり、今日の変化が与える新たな未来を理解することを要求するのである。